

解答

④

傍線部では疑問詞の「奚」が用いられているが、「**ん**」と送り仮名があることを踏まえると、「どうして長生きなどするのか、いやするものではない」と反語で解釈するのが妥当である。本文の冒頭で「理無久生」と述べられているとおり、そもそも道理として永久に生き続けることはできないが、楊子が長生きするものではないと考えるのはなぜか、その理由が本問では問われている。

傍線部の後を読んでいくと、「五情好悪」にしろ「四体安危」「世事苦楽」「変易治乱」にしろ、昔も今も変わらない（古猶今也）ものであり、すでに見聞きたり経験したりしたことのあるものばかりだ（既聞之矣。既見之矣。既更之矣）と楊子は述べている。そして、最後の一文でこれら具体的な内容をまとめて、「百年猶厭其多。況久生之苦也乎」と結論づけているわけだが、ここで抑揚形が用いられていることに注目しよう。

「A猶B。況C乎」で、「AすらなほB。いはんやCをや」と訓み、「AですらBなのだから、ましてCはなおさらである」の意である。これを踏まえて傍線部を解釈すると、「百年の寿命ですら長くて嫌になるのだから、それ以上に長生きするのはなおさらである」となる。つまり、同じことの繰り返しで、百年生きるのだって嫌だということが、傍線部で楊子が「長生きするものではない」と言った理由である。

選択肢を見ると、「百年の寿命でさえ長過ぎるのに、ましていつまでも生きていく」と抑揚形を踏まえて述べている④が正解と判定できる。書き出しの「人の営みはいつの時代も変化はなく」も、「古猶今也」に対応している。

その他の選択肢は、①は「むしろはやく死んだほうが」、②は「人のいのちは短くはかない」、③は「真理は過ぎてゆく時間の上にしか含まれておらず」、⑤は「人々の営みのすべてを追体験できるわけではなく」が、どれも本文にない内容である。現代文と同じく、本文にない内容が書かれている**選択肢は×で消去しよう。**

選択肢チェック

百年^{スラ}猶^ホ厭^{いとフ}其^ノ多^{キヲ}。況^{シヤ}久^{シク}生^{ケルコト}之^ノ苦^{シキヲ}也^一乎^ト。

☆抑揚「AすらなほB。」

いはんやCをや

A「百年」を引き合いにして、
C「久生」なんてなおさらだ
(^{嫌だ})
←
ということが述べられている

問

傍線部A「久生奚為。」と、楊子がここでいっているのはな
ぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

反語「どうして長生きなどしようか」

- ① 生きていく苦しみは耐えがたく、またそこには価値も見いだせないのだから、むしろはやく死んだほうが長生きするよりは
ましだ、と思っっているから。
- ② 人のいのちは短くはかないものであり、それは昔も今も変わ
らないことなのだから、長生きしようとかくせくするのは愚か
な努力にすぎない、と思っっているから。
- ③ 真理は過ぎてゆく時間の上には含まれておらず、時がうつ
ろえばすぐに捉えがたいものとなってしまいうので、これ以上生
きながらえてもむだだ、と思っっているから。
- ④ 人の営みはいつの時代も変化はなく、それをひとたび経験し
た者には百年の寿命でさえ長過ぎるのに、ましていつまでも生
きていく苦しみは耐えがたいものだ、と思っっているから。
- ⑤ 長生きしたとしても人々の営みのすべてを追体験できるわけ
ではなく、しかも新しい体験もそこでは見いだされないの
で、長寿のための努力はむなしなことだ、と思っっているから。

☆正解の④以外は
抑揚の解釈が
できていないこと
に
注目しよう！

書き下し文

(楊子曰はく)「理として久しく生くるもの無し。生は之れを貴んで能く存する所に非ず。身は之れを愛して能く厚くする所に非ず。且つ久しく生くること奚ぞ為さん。五情の好悪は、古猶ほ今のときなり。四体の安危は、古猶ほ今のときなり。世事の苦楽は、古猶ほ今のごときなり。変易治乱は、古猶ほ今のごときなり。既に之れを聞けり。既に之れを見たり。既に之れを更たり。百年すら猶ほ其の多きを厭ふ。況んや久しく生くることの苦しきをや」と。

現代語訳

(楊子が言うには)「道理として生きながらえることはできない。生命というものは、大事にしたところで保ち続けることができるとはできない。身体というものは、自愛したところから健康を保てるものではない。そのうえ、いつまでも生きながらえるなどということを目指しようとするのだ。五感の好き嫌いは昔から何も変わっていない。身体の健康・不健康も昔から何も変わっていない。世の中の苦楽も昔から何も変わっていない。変易や治乱も昔から何も変わっていない。こういうことを私はすでに聞いた。すでに経験した(そんなことばかりだ)。百年生きるのさえその長さに嫌になる。ましてや生きながらえることの苦しさといったらなおさらだ」と。

重要語句

- 好悪 「悪」の音読みは、「わるい」の意のときは「あく」「いやだ」「にくむ」の意のときは「お」である。「好悪」は、好き嫌いということであるから、「じゅうお」と訓む。
- 変易 「易」の音読みは、「やさしい」の意のときは「い」「かわる」の意のときは「えき」である。「変易」は、「変」と重ねてゐるので、「へんえき」と訓む。